

▶ 第2章

中国の韓国取り込み戦略の変容

—— 「特化型」に移行する貿易構造

三菱UFJモルガン・スタンレー証券 チーフエコノミスト

李 智雄

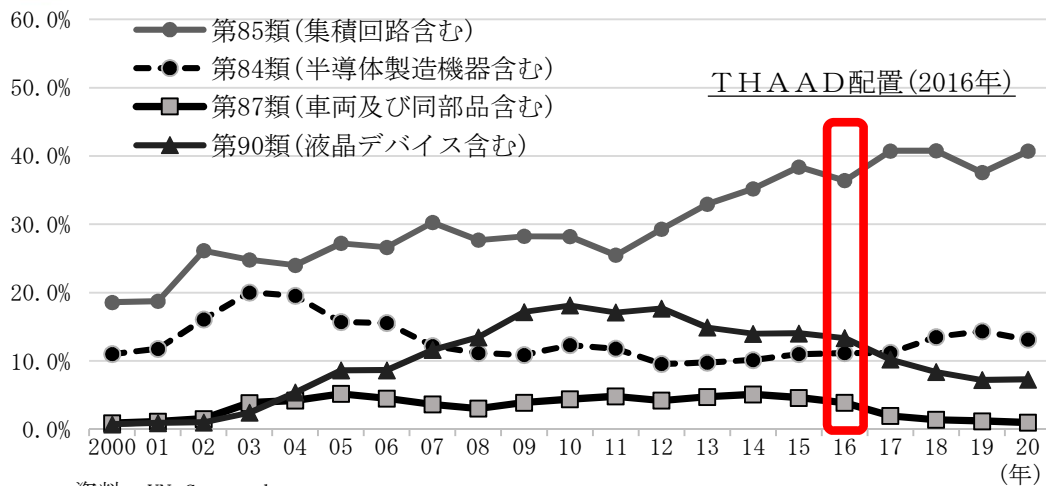
【ポイント】

- ▶ 中国にとって韓国は米国、日本に次ぐ第3位の貿易相手国だが、2016年の米軍の地上配備型ミサイル迎撃システムTHAAD（終末高高度防衛ミサイル）配備をめぐり中韓間の緊張が一気に高まり、中国側の「報復」で中国の輸入に占める韓国の割合は低下した。
- ▶ しかし、内訳を検証すると「中国製造2025」の産業政策目標に沿って、中国製品で代替可能かどうかによって分野別の差が生じていた。具体的には「車両及び部分品」や「液晶デバイス」などで韓国からの輸入割合は低下したものの、「集積回路」や「半導体製造機器」などは逆に上昇し、貿易構造が「特化型」に移行したことがうかがえる。
- ▶ コア技術の開発がまだ十分とは言えない中国は依然として韓国企業の技術力などを必要としている。中国国内で技術が十分に醸成されるまでは、東アジアの地域的な包括的経済連携（RCEP）などの貿易協定や、アジアインフラ投資銀行（AIIB）、通貨スワップなどによって貿易、投資、金融など様々な面で韓国を取り込みたい意向だと考えられる。



注目データ

韓国から中国向けの輸出、品目別割合（単位：％）



資料：UN Comtrade